

浜中町第3期子ども・子育て支援事業計画（案）パブリックコメント募集の結果について

1 実施期間 令和7年2月13日（木）～令和7年2月25日（月）

2 実施結果

(1) 意見件数 6件※

※No3～6については、霧多布高等学校の生涯学習「浜中学」の一環として霧多布高等学校1年生から浜中町の子育て支援事業等に対する意見・改善策を提案していただきました。

(2) 意見の概要と浜中町の考え方

No	意見の概要	浜中町の考え方
1	<ul style="list-style-type: none"> ・茶内地域に、季節や天候に関わらずいつでも安心して安全に過ごせる「みんなの居場所」を作っていただく（既存施設の整備）ことを希望します。 ・その施設を皆が平等に利用できるような仕組み作りや、公共交通機関の整備を希望します。 	<p>【公共施設の施設整備について】</p> <p>本計画第4章基本目標2では、子育てしやすい生活環境の整備・子ども等の安全の確保③安心して外出できる環境の整備（公共施設の施設整備）の取組を目指していく旨を記載しております。今後も関係各課との連携を図りながら取組を進めてまいります。</p> <p>【子どもの居場所について利便性の取組】</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者トレーニングセンターについて、調理場の改修や外の運動スペースを広げて子どもや父母、高齢者などの地域住民とのふれあいの場となる施設にしていきたい。 ・茶内保育所から農業者トレーニングセンターまでは神社を挟んでいるだけですので、裏の林を活用して保育所も含めた一体的な施設としての活用はできないでしょうか。 ・児童クラブにかよっている子どもたちは茶内市街の子どもに限られていますが、中学校のクラブ対応バスに乗せていただくことができれば農村部の子どもたちも参加できると思いますのでご検討願います。 	<p>子ども等の居場所として利用しやすい仕組み作りについても、いただいたご意見を踏まえ、地域資源と照らし合わせながら検討いたします。</p> <p>児童クラブについては、支援員から保護者へ日常の様子等を伝え、家庭と連携した育成支援が必要なため、連携が希薄とならないよう工夫しつつ、送迎支援についてもファミリーサポートセンター事業を活用する等、保護者や関係機関に対する周知に努めてまいります。</p>

No	意見の概要	浜中町の考え方
3	<p>・浜中町の保育体制の現状と課題について</p> <p>【現状】</p> <p>浜中町では保育体制が整っていないため、子育て世代にとって子育てのしにくさの一因になっている。現在浜中町には家庭で保護できない間、保育してくれる場所が保育所しかなく、認定こども園や幼稚園などがいない状況にある。</p> <p>【課題】</p> <p>①浜中町における保育体制が整っていない。</p> <p>②へき地保育所などでは主要保育所とは退所時間が異なり、送迎上の関係で保護者が時短勤務になってしまう。</p> <p>【改善案】</p> <p>(1)午睡時間の改善</p> <p>現在浜中町の保育所では午睡時間が一律2時間とされており、年齢によって午睡時間は変わらないようにされているが、厚生労働省発出保育所保育方針の中では「午睡時間は子どもの発達の状況や個人によって差があることから、一律とならないよう配慮すること。」と書いてある。</p> <p>他地域の実例として、東京都足立区立東綾瀬保育園については午睡時間を一律にせず子どもが眠ったり遊んだりすることを選択できるようになっている。</p> <p>以上のことから、浜中町の保育所においても午睡をするか遊ぶかの選択をできるようにすればよいと考える。保育士の配置についても、東綾瀬保育園では園児122人に対し保育士31人で、浜中町の茶内保育所では園児61人に対して保育士15人であり、茶内保育所の施設は令和元年に建て替えたばかりであり、施設も充実しているため遊ぶスペースと午睡スペースを分けることはできると考える。</p>	<p>【午睡の時間について】</p> <p>遊ぶ子どもと、午睡する子どもを分けることについては、東綾瀬幼稚園と比べて浜中町内の保育所は規模が小さく、その中で職員を配置していますので、現状の配置では対応しかねるものですが、いただいたご意見を参考に今後の運営改善の参考とさせていただきます。</p> <p>【認定こども園への取り組みについて】</p> <p>保育所と認定こども園では入所の条件や教育の有無など多くの違いがあります。浜中町には保育所がありますので、保育体制が全く整っていないとは考えておりませんが、今後も子育て世代の教育ニーズ等を把握することに努め、認定こども園への移行も含めながら保育所運営を進めていきたいと思えます。</p>

(2)認定こども園への取り組み

浜中町の保育体制を改善する二つ目の方法は認定こども園の併設である。認定こども園は保育と教育の両方を与えられ、保育しながらその年代の必要最低限の教育を与えることができる。働いていなくても利用でき、保育所より入園できる可能性が高い。最大のメリットとして幼児用の送迎バスが出るというメリットがある。

他地域の実例として、長崎市桜町保育園では令和3年4月に保育園から認定こども園へ移行し、さらに保育・教育面が強化されている。大きなポイントは3つあり、1つ目は保育料の支払先が市ではなく、保育園に直接支払い。2つ目は親の就労が原則だった保育園とは異なり、満3歳以上の子どもについては親が就労していなくても預かれるようになった。3つ目は幼稚園免許を持つ保育士が保育教諭という名称に変更。認定こども園では保育士資格及び幼稚園教諭両方の資格が必要となり、より一層質の高い保育・教育を提供する。

「浜中町まちづくり総合計画書」の81ページに「保育所及び小・中・高等学校校種間連携による子ども同士や職員間の積極的な交流により、子どもの育ちと学びをつなぐための学習指導や生活指導の充実を図る」との記載があったことから、保育施設においても幼児教育の機会を設けるべきであると考え。資格などの問題で保育士が実施することが難しければ、小学校の先生などを派遣し、学習指導をしてもらうことも検討してほしい。

No	意見の概要	浜中町の考え方
4	<p>・浜中町の小児医療体制について</p> <p>【現状】</p> <p>浜中町では小児科の診療を行っていないため、子育て世代にとって子育てのしにくさの一因になっている。現在浜中診療所では3歳未満の小児予防接種は実施しているが診療は行っていない。</p> <p>【課題】</p> <p>①既存の医療施設である浜中診療所では、小児診察の体制が整備されていない。</p> <p>②厚岸町などの近隣市町村まで受診するのに、地域公共交通の不備、仕事の休みづらさなどのため、受診しづらい。</p> <p>【改善案】</p> <p>(1)小児科医を派遣し、オンライン診療を行う。</p> <p>浜中町の小児医療体制を改善するには、2つの方法が考えられる。1つ目はオンライン診療及び小児科医の定期派遣を行い、浜中診療所の小児診察体制を拡充することである。オンライン診療とは、スマートフォンやタブレット、パソコンなどを使って、自宅等にしながら医師の診察や薬の処方を受けることができる診療とされている。</p> <p>他地域の実例として、愛知県北名古屋市かねこどもクリニックでは、新型コロナウイルス感染症の流行下であっても、必要な医療を継続して提供できるよう、感染対策の一環としてオンライン診療を開始している。オンライン診療の効果として、活用により通院・待ち時間の短縮、兄弟児を伴った移動等の負担軽減、患者（子ども）にとって落ち着いた状態で診察をすることが可能であるといった点が挙げられている。</p>	<p>【オンライン診療及び小児科医の定期派遣について】</p> <p>浜中診療所の小児オンライン診療の導入については、診療所に専門医が在職しておらず、未満児については小児特有の病状への対応や専門性が確保できないこと、処方箋についても調剤薬局との連携が必要になるなどの理由により、導入の検討には至っておりません。</p> <p>また、小児科医の定期派遣については小児を診療するための設備や体制が整っていないことや、全国規模で小児科医が不足している傾向にあり、医師の確保が大変困難であることから、小児オンライン診療と同様に検討に至っていない状況であります。</p> <p>浜中診療所では引き続き3歳以上の小児に関しては容態などに応じて診療を行ってまいります。</p> <p>【ライドシェアへの取り組みについて】</p> <p>ライドシェアと小児医療体制充実の関係性については、小児の受診には必ず保護者が付き添い、子育て世代の多くが自家用車を所有していることからその繋がりには強くないと考えられます。</p> <p>しかし、交通手段を持たない町民に対する移動手段の確保については、浜中町地域公共交通活性化協議会協議における協議の下、協議会委員の皆様からの意見等を踏まえた上で検討してまいります。</p>

(2)ライドシェアへの取り組み

改善案の2つ目については、ライドシェアを活用した通院環境の整備である。令和6年第3回浜中町議会定例会では、渡邊議員による一般質問において浜中町におけるライドシェアの取り組みについて議論されており、「将来の地域交通の変化についてライドシェアを含めどのように考えるか」という質問に、町長は「地元タクシー会社が不利益を被らないように、活性化協議会との協議の下、浜中・姉別地区の交通の不便さも解消すべくライドシェア先進地の事例などを模索しながら町民の足の確保を考えていきたい」と答えている。

他地域の実例として、北海道天塩町では、天塩-稚内間相乗り交通事業（ライドシェア）を実施している。町民は買い物や通院等で70km離れた稚内市に出かけることが多いが、公共交通機関では片道3時間もかかり、車を運転できない高齢者等には非常に不便であったことから、交通弱者を支援するため「天塩町シェアリングコミュニティ構築プロジェクト」を策定。相乗りマッチングサイト「ノッテコ」と連携し、天塩-稚内間のライドシェアの実証実験をスタートしている。取り組み開始1年間で173名が利用し、2,500万円のコスト削減効果を実績としているが、ドライバーの不足、事故が発生した場合の責任がドライバー負担であること等が挙げられている。

浜中町への提案として、相乗りマッチングサイト「ノッテコ」と連携し、タクシー業者に配慮して浜中から厚岸までなど範囲を決めて行うなどすればいいと考えます。事故が発生した場合の対応についても、運転手と役場で半分ずつ負担するというのを提案します。

No	意見の概要	浜中町の考え方
5	<p>・浜中町における遊び場の改善について</p> <p>【現状】</p> <p>浜中町では子どもの遊び場はあるが、安心して子どもだけを遊ばせることができない。他には児童クラブがないため働いている親からすればとても不便なため、子育てのしにくさの一因になっている。また、浜中町では遊具のある公園が少なく、霧多布や茶内にしかない。</p> <p>【課題】</p> <p>①屋内交流施設が少ない。</p> <p>②浜中町内の屋内交流施設までの移動手段が少ない。</p> <p>③安心して子どもを預けられるところが少ない。</p> <p>【改善案】</p> <p>(1)既存の施設を改装する</p> <p>1から建設することは難しく、時間とお金が必要であるため、現在利用されている施設や、あまり利用されていない施設を改装し、再利用することを提案します。</p> <p>(2)町営バスの有効利用</p> <p>浜中町は町営バスが月曜日から金曜日まで毎日運行しているが、丁度良い時間のバスが運行しておらずせっかくの町営バスがあまり利用されていない。</p> <p>他地域の実例として、鳥取県南部町では「ふれあいバス」と称したバスが運行されている。定時定路線を運行しつつも予約制でバクシー運行というバスとタクシーを組み合わせた利便性の高いデマンド運行も行っている。</p> <p>(3)児童館ボランティア活動を行う</p> <p>他地域の実例として、神戸市立長尾児童館では「子どもヘルパー」という活動を行っており、小学校高学年の子ど</p>	<p>【子どもの居場所、遊び場について】</p> <p>浜中町では、共働き等により保護者が昼間家庭にいない小学生を対象に、霧多布小学校内及び茶内トレーニングセンター内で、「放課後児童クラブ」を運営しています。</p> <p>また、学校から放課後児童クラブまで歩いて通うことが困難な散布・浜中地区の小学生についても、移送サービスを利用いただくことで各放課後児童クラブを利用いただいております。</p> <p>共働きでない家庭の子どもの放課後の居場所については「児童館が欲しい」という声もいただいておりますが、本計画第4章基本目標2に記載されております、子育てしやすい生活環境の整備・子ども等の安全の確保③安心して外出できる環境の整備（公共施設の施設整備）の取組を目指していく中で、既存の施設や公園を活用して児童館に限らず”子どもが集まれる場所”を充実させるよう、今後も関係各課との連携を図りながら取組を進めてまいります。</p> <p>また、町営バスについては、浜中町地域公共交通網形成計画に基づき、町の規模や特性に合わせ、限られた車両と運転手により運行しております。”子どもが集まれる場所”への交通手段については、将来におけるバス利用者数の見込みやいただいたご意見を踏まえ、利用しやすい仕組み作りを検討してまいります。</p>

	<p>もたちが月2～4回活動を行っている。児童館に通う乳幼児親子との交流や高齢者とのマッサージを通じた交流、消防団の協力による消防訓練など多岐に渡る活動をしている。</p> <p>児童館の場所に関しては現在ある施設を改装した屋内交流施設や高校の一室、現在の児童クラブなどをうまく活用する方法がよいと思う。</p>	
6	<p>・浜中町における子育て施設の充実について</p> <p>【現状】</p> <p>本グループが保護者を対象として実施した子育てアンケートから、子育て施設や子どもを預かる施設が少ないため、困っていることが結果として出された。「浜中町に室内の遊び場（児童館のような施設）は必要だと思いますか」という問いは16人中14人が「いる」と回答した。理由としては「天気が悪くても、親が家に居なくても友達と遊べる場が必要だと思うから」等が挙げられ、児童館のような施設がこの町には求められている。</p> <p>【課題】</p> <p>①共働きの家庭の子どもの放課後や休日の居場所が少ない。</p> <p>②子育て施設までの移動には保護者の送迎が必要となる。</p> <p>【改善案】</p> <p>(1)小学校等の空き教室を活用し児童館を設置する</p> <p>他地域の事例として、千葉県千葉市教育委員会では「千葉市放課後子ども教室推進事業」として小学校の余裕教室、体育館、校庭等を使用して地域住民や保護者の方々の参画を得て小学生を対象に学習やスポーツを通して地域</p>	

住民との交流活動を行っている。

現在、浜中町では子どもの放課後や休日の居場所がなく、子育て施設までの移動には保護者の送迎が必要になるということから、児童館を設置することでそのような課題が改善されていこうと考えた。